

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2010年11月調査結果-

2010年12月13日

調査要領

- 調査期間 2010年11月16日～22日
- 調査対象 200社
- 回答企業 120社
- 回収率 60.0%

□DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を合致回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI値＝（増加・好転などの企業割合）－（減少・悪化などの企業割合）

業況・採算：（好転）－（悪化） / 売上：（増加）－（減少）

旭川市概況

※全産業の11月の状況を見ると業況DIは、前月より6.5ポイント悪化の▲49.2。

平成7年4月調査開始以来188ヵ月連続マイナス2桁水準で推移している。

業種別では小売業が回復となった。

※向こう3ヵ月の先行き見通し業況DIは▲60.0と悪化しており、依然として厳しい状況である。

業種別でみると、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業の5業種全てが悪化しており、地域経済や足下の景気感は依然として厳しい状況となっている。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
業況	▲40.5	▲32.3	▲39.8	▲43.3	▲42.7	▲49.2	▲60.0
売上	▲23.7	▲21.0	▲28.9	▲34.6	▲40.3	▲35.8	▲60.8
採算	▲29.0	▲26.6	▲34.4	▲40.9	▲41.1	▲48.3	▲57.5
仕入単価	▲26.0	▲31.5	▲21.1	▲30.7	▲23.4	▲30.8	▲30.8
従業員	▲8.4	▲12.9	▲9.4	▲11.8	▲12.9	▲13.3	▲15.0
資金繰り	▲13.0	▲14.5	▲20.3	▲16.5	▲21.0	▲17.5	▲30.0

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
建設	▲51.7	▲50.0	▲60.7	▲58.6	▲51.8	▲55.6	▲66.7
製造	▲26.9	▲4.1	▲25.9	▲25.9	▲33.3	▲37.1	▲48.2
卸売	▲39.3	▲19.2	▲14.8	▲22.2	▲19.2	▲37.5	▲54.2
小売	▲37.5	▲29.2	▲29.2	▲45.4	▲57.1	▲45.5	▲54.5
サービス	▲45.9	▲59.1	▲72.8	▲68.2	▲54.1	▲75.0	▲80.0

今月のトピックス（業界の声）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋口より多忙になってきたが、マンション関係融資が厳しくなっており、せつかくの工事もできない状況である。前々年度対比 90%程と予想している。 ・ 受注確保が競争の激化で厳しい状況となっている。今後の見通しも見えない、公共事業費の増加を期待する。 ・ 民主党政権下のもと、公共事業の大幅な削減により業況悪化。補正予算の執行も遅れており、ジリ貧状態が続いている。 ・ 地元の仕事の見通しがあまりないため、夏のうちから本州方面へ営業をしている。円高の影響による受注減はないが、商社から輸入品パーツの売り込みが多くなってきている。 ・ 着工契約件数は増加しているが、前年との低い対比であること、建坪の縮小などで売上粗利益は低下し、厳しさが薄らぐ心境とならない。
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11 月度は売上高・利益ともに前年を上回る見込みだが、受注状況はよくない。11 月下旬に国内最大の展示会が、東京ビッグサイトで開催され出展する。来年度へ向けての手応えをつかめるよう注力したい。政府には内需拡大の具体的な政策を期待する。 ・ 客先は少し動きが出てきた様であるが、まだ弊社の仕事まで話が決まってこない。時期が時期だけに気もめることである。 ・ 異常天候による農作物の品質低下及び、収穫減少により価格の変動が激しく苦慮している。 ・ リーマンショック以来、久しぶりに大幅に好転しているが、円高・株価の動向・政治の動向・国際情勢の動向など来年度に向けての不安材料も多々あるような気がする。 ・ 道内農産物（小麦・そば・ビートなど）の不良により品薄・値上がり状態。消費不良とのダブルパンチ。先行きが厳しい。
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 売上・利益ともほぼ前年並みの動きとなっているが、年末商戦についての見通しは依然不透明。 ・ 業況については昨年とほぼ変わらない。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立ち上がりから集客が極端に少なく厳しい状況。寒さが本格化したが、依然例年に比べ、コートやブルゾンなどの重衣料の動きが鈍いのが厳しい要因になっている。 ・ 丸井今井跡地が注視される。動向によっては買物公園が活性化されるであろう。移転を考えている店舗が増えてくるはず。 ・ 円高や中国元の上昇、インドの綿花輸出禁止策などによって、仕入単価が急上昇しているため、収益に不安を増している。 ・ 年末にかけての原料価格の上昇の見込みが多く、特に油・砂糖・野菜・近海魚などが挙げられる。また今回の時給の値上で利益が圧縮される。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊販売価格が下落しているが、ある程度のボトムをしっかりとって販売中、しかし予約受注が進捗率 70%位。安値販売は避けてイールドコントロールに努める。11 日現在、前年比 103%で推移、最近予約が増えているため取りこぼしがないように努める。 ・ 例年より雪が少なく、板金塗装部門の入庫が減少している。新車販売が補助金の関係で減少している。 ・ デフレ・景気先行不透明も重なり、就職内定率は最悪、90 年代に逆戻り感がある。足元の景気感はその以下であり、消費単価下落・人員削減も考案中。減収減益である。 ・ 前年と比較して、予想以上の売上の落ち込みから業況が悪化の一途である。補正予算の早期施行と関係する事業費に増加に期待する。 ・ 利用者は引き続き減少しており、この先も減少する見通しである。また昨年は札幌ドームでクライマックスシリーズ・日本シリーズがあり、利用者が多かったのが今年は大幅に減少する見通しである。 ・ 業界としては各催事等の予算減少に伴って、売上は当然減少となっている。同業他社の参入により価格も減少傾向にあるのが現状。

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上DI6.7ポイント、仕入単価DI5.4ポイント、資金DI1.7ポイント回復。採算DI11.2ポイント、従業員DI4.7ポイント悪化、総じて業況DIも3.8ポイント悪化となった。業種別では設備その他1ポイント回復。総合工事5ポイント、建築業13ポイント悪化となった。着工契約件数は増加しているが、前年との低い対比であること、建坪の縮小などで売上粗利益は低下し、厳しさが薄らぐ心境とならないとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上DI30.6ポイント、採算DI3.7ポイント、従業員DI1.9ポイント回復。仕入単価DI3.7ポイント、資金DI1.8ポイント悪化、総じて業況DIも3.8ポイント悪化となった。業種別では印刷出版20ポイント、金属窯業他17ポイント回復。食料品50ポイント、家具木材13ポイント悪化となった。リーマンショック以来、久しぶりの大幅な好転だが、円高・政治の動向などと来年度に向けての不安材料も多々あるような気がするとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>従業員DI6.1ポイント、資金DI3.5ポイント回復。売上DI8.3ポイント、採算DI13.1ポイント、仕入単価DI1.9ポイント悪化、総じて業況DIも18.3ポイント悪化となった。業種別では、繊維67ポイント、食料品12ポイント、機械鋼材17ポイント、その他7ポイント悪化となった。売上・利益ともほぼ前年並みの動きとなっているが、年末商戦についての見通しは依然不透明との声も寄せられている。</p>
小売業	<p>仕入単価DI17.8ポイント悪化。従業員DI横ばい。売上DI16.2ポイント、採算DI7.6ポイント、資金DI14.7ポイント回復、総じて業況DIも11.6ポイント回復となった。業種別では、自動車13ポイント悪化。その他横ばい。衣料品50ポイント、食料品50ポイント回復となった。年末にかけての原料価格の上昇の見込みが多く、特に油・砂糖・野菜・近海魚などが挙げられるとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上DI29.2ポイント、採算DI25.0ポイント、仕入単価DI24.1ポイント、従業員DI5.8ポイント、資金DI0.9ポイント悪化、総じて業況DIも20.9ポイント悪化となった。業種別では、運送15ポイント回復。その他横ばい。クリーニング100ポイント、ホテル17ポイント、飲食17ポイント、整備業25ポイント悪化となった。各催事の予算減少に伴って、売上也減少となっており、同業他社の参入により価格も減少傾向にあるとの声も寄せられている。</p>